

スポーツを中心とした多角化経営を行う企業が運営するアリーナ 米国のプロスポーツ施設として初めてスポーツブックを開設し、更なる集客を見込む

施設及び事業の概要

所在地	米国ワシントンDC
開業年	1997年
収容人員	アイスホッケー (Capitals) : 18,506 バスケットボール (Wizards) : 20,356
付帯施設	ラウンジ4か所、クラブ2か所、スイート108室 飲食店舗、フィットネス店舗、サロン、スポーツブック
ホームチーム	Washington Wizards (NBA) Washington Capitals (NHL) Georgetown Hoyas男子バスケットボールチーム(全米大学体育協会)
開発のスタイル	アリーナのための単独開発
資金調達概要	・当時のWizards及びCapitalsのオーナーが民間資金で建設 ・ワシントンDC政府は用地の準備と周辺のインフラ開発を実施
周辺地域への効果	・地域における再開発・再活性化を促進する触媒の効果 ・多様なイベントを開催し、コミュニティの様々なグループにとって良い施設に

(出所: Monumental Sports & Entertainmentへのインタビュー、Capital One Arenaウェブサイト
<https://www.capitalonearena.com>)

アリーナ外観



出所: Capital One Arenaウェブサイト
<https://capitalonearena.viewlift.com/articles/about-capital-one-arena>

アリーナ正面



出所: Monumental Sports & Entertainment提供

多角化経営による機会獲得

- アリーナを所有・運営しているMonumental Sports & Entertainmentは、総合スポーツ・エンターテインメント組織として、複数のスポーツチームを所有、本施設などスポーツ及びエンターテインメント施設の経営・運営、スポーツ関連のメディアコンテンツプラットフォームを中核とした事業の多角化を進めている。これらの事業が一体となって、収益機会のみでなくブランド開発の機会ももたらしている。

【多様なスポーツチームの所有、アリーナの一定の稼働率確保】

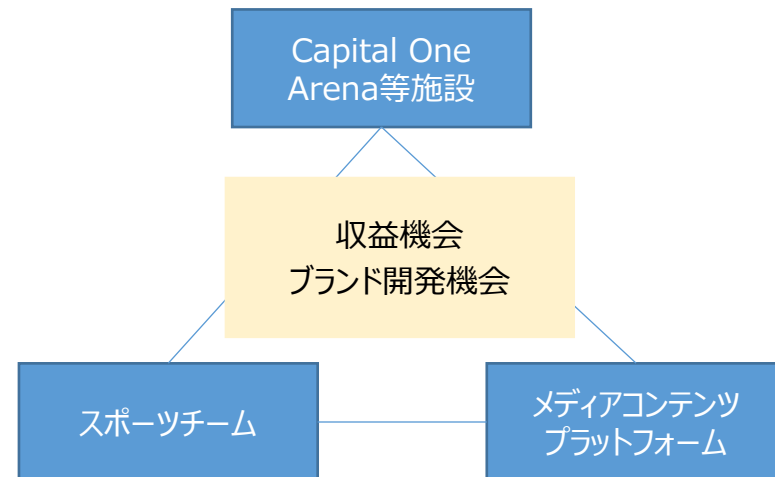
- Capitals (NHL) に加え、バスケットボールでは4リーグ (NBA (Wizards) 、WNBA、NBA 2Kリーグ (e-スポーツ) 、NBA Gリーグ (バスケ育成リーグ)) でチームを所有しているほか、世界的なe-スポーツ組織であるTeam Liquidを所有するaXiomaticに出資。チーム所有はコンテンツという観点で大きな機会をもたらす。
- Capitals (NHL) 及びWizards (NBA) の試合でのアリーナ利用は、年間イベント件数のうちの4~5割程度を占めている。バスケットボールとアイスホッケーという異なるスポーツのチームを所有し、アリーナをホームとして利用することにより、アリーナの稼働率を一定程度確保。

【ファンへの幅広い情報発信・繋がり】

- CapitalsとWizardsの試合を放送する地域のスポーツネットワークへの出資、ライブスポーツイベントを放送するOTTスポーツネットワークを所有。
- 5か国語 (中国語、日本語、ヘブライ語、ポルトガル語、アラビア語) でスポーツファン向けのコンテンツを制作する会社も所有。八村塁選手の入団を契機に、Wizardsは2019年9月より日本語版の公式ウェブページとSNSを開始。

更なる集客に向けた展開

- 当アリーナの年間イベント開催は約230件、約3百万人を集客しているが、2021年5月に米国のプロスポーツ施設として初めて、アリーナに直結したスポーツブック (スポーツを対象に賭けを行うことができる場所) を開設した。年間365日営業のため、更なる集客を見込むとともに、アリーナは年間を通じて集客できる施設に。



新設されたスポーツブック



出所：Monumental Sports & Entertainment提供